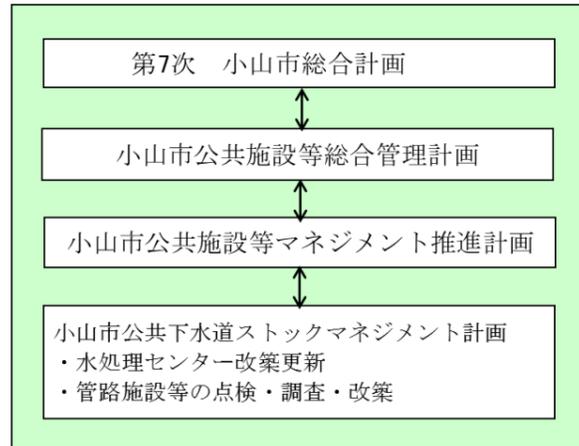


小山市公共下水道ストックマネジメント計画の概要

1. 【上位計画での位置付け】

「小山市公共下水道ストックマネジメント計画」は、上位計画である「小山市公共施設等マネジメント推進計画」における個別施設計画の位置付けとなっており、その基本的考え方や方向性に基づいて計画の策定を行いました。

また、策定にあたっては、庁内委員会及び幹事会を設け、検討を行ってまいりました。



2. 【背景】

小山市は昭和46年度に公共下水道事業に事業着手し、現在、小山処理区、扶桑処理区、思川処理区（流域関連）の3処理区において事業の推進を図っております。管路につきましては、昭和40年代より整備着手し、平成初期から平成10年代をピークに整備を推進してまいりました。

また、処理場であります。小山水処理センターは昭和51年度から運用開始し、扶桑水処理センターについては、昭和59年度から運用開始しております。

管路・処理場ともに、施設の老朽化が顕著化し、今後、更新時期を迎えるストックが急増することが想定されています。

将来にわたって良質な下水道サービスを提供するためには、膨大なストックを限られた予算の中で施設管理することが不可欠であり、それを実践するためには、従来の短期的な部分改築ではなく、ストック全体として中長期的にマネジメントすることが必要となります。

3. 【現在の状況】

<管路>

○管路の整備延長約655km【H29年末】

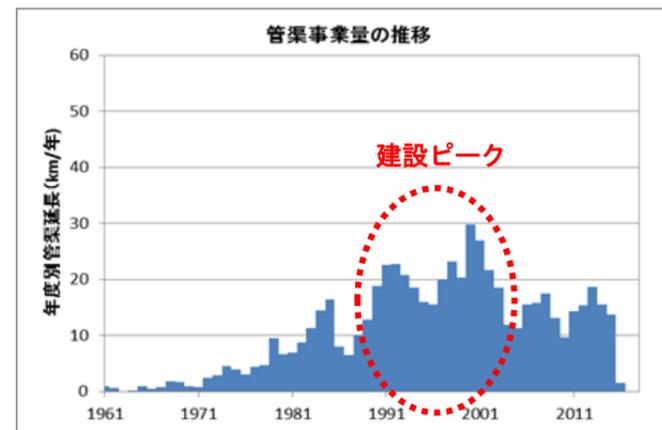
○整備着手から間もなく50年を迎え、耐用年数を超えた老朽管が急増する

○管路の老朽化に起因する道路陥没事故等のリスクが増大しつつある

<処理場・ポンプ場>

○処理場の主要設備【受変電設備、自家発電設備】に著しい劣化がある

○施設【管理棟、流入管路】の耐震補強が必要

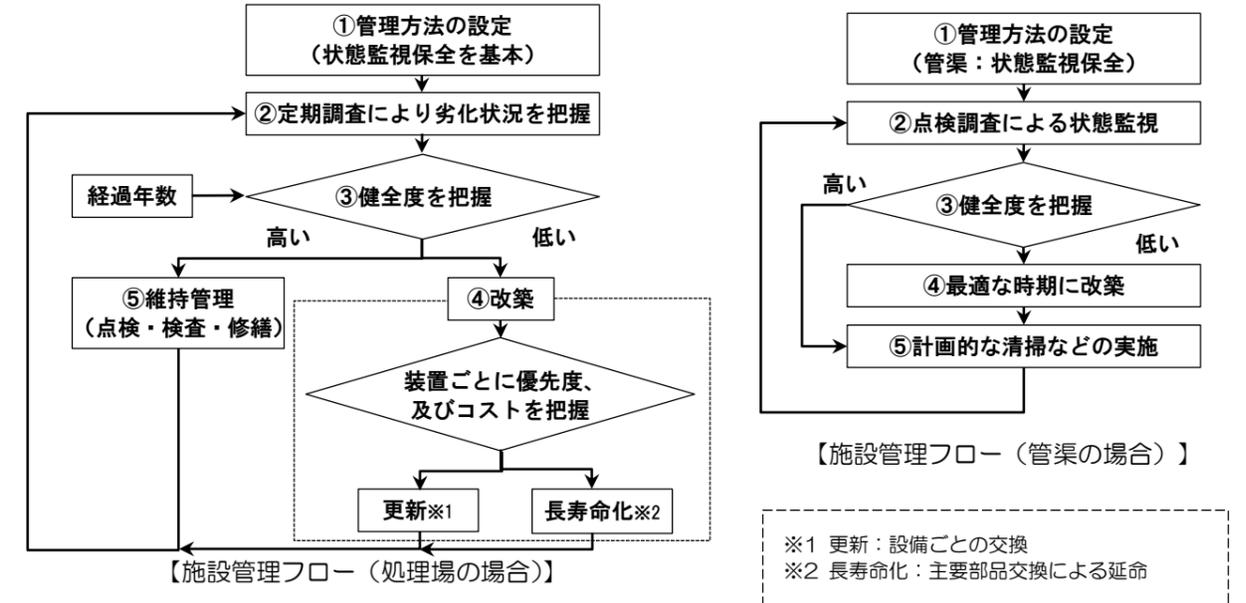


4. 【目的】

本計画では、下水道施設全体の健全度の低下傾向を捉え、効率的かつ効果的な予防保全型の施設管理を実践することによって、施設の長寿命化とライフサイクルコストの削減を図るものです。

5. 【施設管理方法と対策内容】

状態監視保全を基本とした管理方法にて施設管理を行ない、施設が有する機能や状態の健全度と、施設規模や設置条件等に基づく重要度により、優先順位付けを行い、改築を実施いたします。



<<直近5年間の対策内容(2018年~2022年)>>

管渠	維持管理：調査・点検・巡視
処理場	更新：ゲート類、沈砂池設備、受変電設備、自家発電設備、計装類 維持管理：日常点検、定期点検

6. 【ストックマネジメントによる効果】

- 最適な方法で施設管理することにより、各施設の長寿命化を図る。
- 施設の調査・点検、改築・更新に社会資本整備総合交付金(50/100)を活用できる。
- 適正にマネジメントを行なうことで、公共施設等マネジメント推進計画の今後40年間の総改築費用約790億円(1年当たり約20億円)に対し、約140億円の削減が図られる。

➢ 今後40年の改築費削減額

約6億円×10年間=約60億円
約4億円×10年間=約40億円
約2億円×20年間=約40億円
40年間で140億円

